

最上小国川清流未来ニュース

令和5年3月20日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第28号

第7回最上小国川写真コンテスト入賞作品決定!

最上小国川清流未来振興機構では、最上小国川の大切さの再認識、未来に伝える機運の醸成のため、第7回最上小国川写真コンテストを開催しました。

「未来に伝えたい、私たちの最上小国川」をテーマに、最上小国川の魅力を撮影した写真を募集し、県内外の31名の方より計77点の応募がありました。今回は、審査で選ばれた入賞作品12点の中から最優秀賞、優秀賞の作品、4点をご紹介します。また、この作品を活用し、地域内外の多くの皆様に最上小国川の魅力をお伝えしたいと考え、入賞作品を掲載した「最上小国川カレンダー2023」を作成し先着200名の方へ配布しておりますので、ご希望の方は事務局へお問合せ下さい。

▼最優秀賞（1点）



作品名 陽春の最上路
撮影場所 舟形町長沢
受賞者 千葉 学さん(宮城県大崎市)

【審査委員講評】

雪解け水で水量の増えた最上小国川と並走する快速湯けむり号をメインに、背後の山々を遠景に、さらに手前に桜の花をぼかして入れることで、陽春という季節感を見事に表現するとともに奥行き感のある作品となっている。

▼優秀賞（3点）



作品名 ナイスゲット
撮影場所 舟形町
受賞者 高橋 秀一さん
(新庄市)



作品名 川遊び
撮影場所 舟形町長沢
受賞者 齋藤 彰さん
(新庄市)



作品名 2022 夏、はじめての鮎釣り
撮影場所 最上町大堀
受賞者 工藤 真紀さん(新庄市)

食の祭典 ふながた若鮎まつり

9月10日(土)及び11日(日)、食の祭典ふながた若鮎まつりがアユパーク舟形で開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、過去2年間にわたりふながた若鮎まつりは中止されていましたが、今年度はドライブスルー販売に加え、鮎やマッシュルームの加工品などの当日販売や、感染対策を講じた飲食スペースが会場内に設けられるなど、コロナ禍の中でも一歩前進した新たな形の若鮎まつりを実施しようと企画されたものです。

当日は焼き鮎や冷凍鮎、鮎天井等を含めて昨年の焼き鮎ドライブスルー販売を超える約11,300尾の鮎が食され、約3,100人の来場者が清流最上小国川の秋の味覚を堪能していました。

来年こそは第40回目の節目の若鮎まつりが盛大に開催され、たくさんの方が焼きたての鮎を食べながら会場で楽しいひと時を過ごせる日が来ることを願っています。

●ふながた若鮎まつり実行委員会：0233-32-0844
(事務局：舟形町まちづくり課交流促進係)



最上町 前森高原サマーフェスティバル2022 子どもたちの川魚イワナのつかみ取り

最上町の前森高原で、コロナの影響で2年間中止だった「前森高原サマーフェスティバル」が3年振りにお盆中の8月15日(月)に開催されました。天候には恵まれなかったものの、多くの家族連れが会場を訪れ、ゲームやワークショップ・フードブースを楽しむ方々で賑わいました。



そのなかでもイベント恒例で例年大人気の「イワナのつかみ取り」には、多くの子ども達が参加し、水しぶきを上げながらイワナを追いかけ、手掴みの感触に悪戦苦闘しながらも、捕まえた嬉しさに笑顔で歓声をあげ一匹でも多く捕まえようとみんな頑張っていました。子ども達には川遊びを通じて夏の思い出になったのではと思います。《最上町商工観光課：0233-43-2262》

【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構事務局（最上総合支庁総務課連携支援室内）：0233-29-1240
※ 機構のFacebook・ホームページで、構成団体の取組みや流域のイベント等を紹介していますので、ぜひご覧ください。



★Facebook

【Facebook】ぜひ「いいね!」をお願いします!
<https://m.facebook.com/seiryumogamiogunigawa/>
【ホームページ】
<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>



★ホームページ

最上小国川流域の振興に向けた取り組み

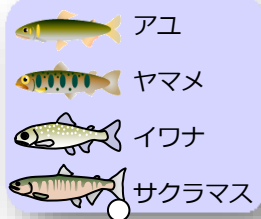
下の図は、平成 27 年 4 月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。
最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。今回は、その中から 2 つの取り組みについてご紹介します。

おもてなしの心で癒す

目標：地域の観光者数 150 万人を目指す。

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ① 物販及び情報発信施設新設の検討 | ⑦ 温泉地等の魅力向上の推進 |
| ② 流水型ダム周辺整備 | ⑧ 「川の駅」でのイベント開催 |
| ③ 月橋橋・満沢橋付近での駐車場と進入路の整備 | ⑨ 親水空間創出の推進（向町） |
| ④ 遊歩道の整備 | ⑩ 親水空間創出の推進（舟形） |
| ⑤ 共同浴場とふかし湯の整備 | ⑪ 親水空間創出の推進（瀬見） |
| ⑥ 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展 | ○ 川床の茶屋設置方策の検討 |
| | ○ イベントの連携検討 |

※アユは最上小国川全川で放流



舟形若あゆ温泉

凡例

- 印：地域の将来像を実現するための施策
- 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
- 印：複数箇所で実施する施策の代表箇所

清流を守り・育て・活かす

目標：アユの放流量と漁獲量 50%増を目指す。

- アユ等の放流
- ① アユ放流事業への支援
- ② 水源井戸の整備
- ③ アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
- ④ サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
- ⑤ 中間育成技術の継承と人材確保・育成
- ⑥ 環境モニタリング
- ⑦ 魚道改修・修繕の検討・実施（一部完成）
- ⑧ 河川工事における環境対策
- ⑨ 計画的な保安林の指定
- ⑩ 水辺林、溪畔林の整備
- ⑪ 合併浄化槽の整備
- 農業等の低減
- 間伐材の搬出・主伐後の再造林
- 河道・森林整備の促進
- アユの生息に配慮した河道整備



小学生のサクラマス放流体験



「おくのほそ道」赤倉ゆけむり館

地元ブランドで活性化する

目標：雇用の確保につながるブランド品の創出 3 品目を目指す。

- 6次産業化の推進（アユ加工品等の開発支援）
- 地域ブランド商品の開発
- 木質バイオマスの利活用の推進

先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川

裏面で紹介

川を知り 川に親しむ

目標：中学生以下の最上小国川のイベント参加者数年間 8,000 人を目指す。

- ① アユ釣り大会の開催
- ② 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
- ③ イwana、サクラマス等の産卵場造成
- ④ 遊漁券の販売促進
- ⑤ ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用促進
- ⑥ 釣り場のアクセス改善
- ⑦ 最上小国川鮎釣り甲子園大会の開催
- イベントの連携協定

裏面で紹介

治水や治山で 自然と共存する

目標：50 年に 1 度の洪水を安全に流せるようにする。

- ① 最上小国川流水型ダム整備
- ② 河川整備（長沢・舟形地内）
- ③ 河川整備（大堀地内）
- ④ 赤倉地区内水対策
- ⑤ 河川情報の提供（ライブカメラ設置）
- ⑥ 河川環境の創出（赤倉地区）
- 河川の効果的な維持管理
- 防災意識向上の推進
- 水位等の河川情報の提供
- 大雪対策の推進
- 河床低下防止と河川施設の保護



アユ中間施設育成とサケふ化場の併用施設（舟形町舟形）



最上小国川流水型ダム（令和 2 年 4 月運用開始）

